

川崎桜本の人々と連帯しヘイトクライムに抗議する声明

私たちは、ヘイトクライムを許しません

私たち日本バプテスト連盟日韓・在日連帯特別委員会（以下「当委員会」という。）は、2022年2月15日付の社会福祉法人青丘社の訴え及び同月18日付のマイノリティ宣教センター運営委員会の呼びかけを受け、神奈川県川崎市ふれあい館（多民族多文化の相互交流の場）・青丘社が差別的動機に基づく暴力や犯罪（ヘイトクライム）に晒されていることに触れました。川崎桜本に住んでいる人々をはじめ、コリアンルーツの人々がそのヘイトクライムという恐怖と隣接して過ごさなければならない痛みに対し、ヘイトや差別を放置する私たちの責任を痛切に覚え、これまでの出会いや繋がりを思い起こしつつ、今ここに改めて私たちの言葉を寄せるものです。

私たち日本バプテスト連盟は、2010年の第56回定期総会で「『韓国強制併合』100年の悔い改め」声明を共有し、総会の中で「朝鮮半島の人々を虐げた歴史的事実を記憶し悔い改める礼拝」をささげました。とりわけ、この声明では「1994年に日本バプテスト連盟に加盟する教会の牧師による「熊本『同化』発言差別事件」を引き起こし、いまだ発言当事者による真の謝罪に至ることができず、在日韓国・朝鮮人の方々へ差別の痛みを背負わせ続けてしまっている私たちであること」を告白し、「在日」教会の方々との交わりの中で、共に生かされていくことを祈り求めました。

日本ではじめて反人種差別法であるヘイトスピーチ解消法が成立した2016年、当委員会は川崎で学習会を開催し、ふれあい館・青丘社の方々に桜本の町を案内いただくことで、歴史の証言者と在日韓国・朝鮮人の生活現場、及び地域社会の中で共に生きるために差別と闘っておられる人々の「現在」と出会わされました。その繋がりから2019年には連盟宣教部と協働の「少年少女・隣人に出会う旅～横須賀・川崎」にて少年少女8名スタッフ8名と在日大韓基督教横須賀教会、東京都墨田区の韓国・朝鮮人殉難者追悼の碑（ほうせんか）、桜本のふれあい館、朝鮮学校との出会いへ導かれました。それは単に歴史を学ぶ旅ではなく、今も差別に苦しみ、悩み、痛みを負う人たちと出会う、文字通りの「隣人に出会う旅」となりました。それらの小さな出会いを積み重ねてきた私たちにとって、今回の呼びかけに対し、今こそ声を上げる時ではないかと思に至りました。そして、あの熊本の事件が、時を超えてこのヘイトクライムへとつながっていると気がつきました。

ここに、私たちは出会ってきた人々をはじめ、直接は出会っていないけれどもそこにある人々を襲う数々のヘイトクライムに対して声をあげてこなかったことを、悔い改めると共に、差別と暴力のない社会を目指し、桜本の人々と連帯してゆくことを表明いたします。

私たちは、桜本の人々をひとりにさせません。私たちは、ヘイトクライムを許しません。また、ヘイトクライムの根絶のために共に連帯することを全国諸教会・伝道所の皆さんに呼びかけます。

「愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。」

（ローマの信徒への手紙12章9～10節）